



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

令和2年度 第5期 小城市歴史資料館常設展示テーマ展 「高田保馬博士の遺品」を開催中

三日月町出身の社会学・経済学者の高田保馬博士の遺品を紹介し、博士の足跡をたどる展示会を開催中です。

- ◆期間 ~3月14日(日)
- ◆場所 歴史資料館 常設展示室内
- ◆観覧料 無料



▲展示の様子

「むかしの道具にみるくらしのうつりかわり展」見学会を開催しました

昔の生活道具を見ながら、現代との生活の違いについて考える「くらしのうつりかわり展」の見学会が、小学3年生を対象に行われました。



さおばかり
竿秤の体験▶



◀見学中の
児童

おぎの歴史探検隊

異形の石鳥居〈その2〉

戦国時代末期に出現する肥前鳥居は、その起源が不明です。最も古い銘文を持っているのは、白石町の稲佐神社の天正13(1585)年ですが、他に銘文が天正期の肥前鳥居は唐津市巖木町に3基(内、1基は倒壊)あります。

これらの鳥居と特徴が似て時期が同じ天正期と考えられる鳥居が、牛津町内砥川八幡神社の三の鳥居(本殿に最も近い)です。銘文は見られませんが、形態の特徴が天正期のものと類似しています。天正期から慶長期への肥前鳥居の形の変化の流れを考えると、この内砥川八幡神社のものが、最も古い肥前鳥居である可能性があります。

この肥前鳥居の最大の特徴は、最上部の笠木の両端が丸みを持っていることですが、その丸み具合は半球状とも言えるほど丸くなっています。柱は2本

継ぎで、傾いた柱は下が太くなっており、このことにより非常に安定感のある、どっしりしたものとなっています。右側の柱の根元は土が流れて礎石が露出していて、基礎構造がよく分かります。

貫は中央部分が1本ですが、柱から外側に突き出た部分は別造となっています。笠木と貫の間の束は前面には丸い額が造り出されて「八幡宮」と彫り込まれています。

この石鳥居は戦国時代の武士の姿さえ感じる力強いものです。武運の神を祀る八幡宮にふさわしい鳥居とも言えます。(続)

小城郷土史研究会/著



▲内砥川八幡神社の三の鳥居

◆開館時間 9時~17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132